©NSCA JAPAN
Volume 26, Number 9, pages 48-53

Key Words【ブルデュー:Bourdieu、社会学:sociology、外見:physical appearance、肉体的資本:bodily capital、キャリア:career】

肉体的資本とストレングス＆コンディショニング専門職

Bodily Capital and the Strength and Conditioning Professional

Shaun Edmonds, Ph.D., CSCS, NSCA-CPT
Department of Kinesiology, University of Maryland at College Park, College Park, Maryland

要約

ブルデューの差異の理論は、ストレングス＆コンディショニング(S＆C)専門職の外見が、その人の知識やスキルについて導き出される前提にどのように影響を及ぼしうるかを探求するのに役立つ社会学理論である。本稿では、身体のもつ外見がしばしば知識や専門技術の指標と解釈されることについて、ブルデューの肉体的資本の概念を通して考察する。外見をコーチングおよびトレーニング能力と結び付けることは、S＆Cの業界において、経済的、社会的、および文化的に非常に多くの影響を及ぼす。

序論

ストレングス＆コンディショニング(以下S&C)の業界には、コーチ、トレーナー、およびその他のフィットネス専門職として身を立てようとする者が多く存在する。そしてこの業界では、S&C専門職が他の専門職を、その体格のみを根拠に評価するのを耳にすることが少なくない。これらのコメントを聞くかぎり、S&Cのコミュニティには、特定の体格がその他に比べて価値が高いというバイアスが存在すると考えられる。そこで本稿では、これらのバイアスがS&Cのコミュニティに及ぼす影響を、社会学的アプローチを通じて探求する。

有能なフィットネス専門職としてキャリアを築く上で重要なのは、認定資格と教育であると論じられているが(5,21)、それ以外の多種多様な要素がフィットネス専門職の成功に作用することは明白である。例えば、カンファレンスやインターンシップ、個人的紹介を通じた人脈づくりは、コーチ(7)やその他のフィットネス専門職の雇用と昇進に重要な役割を果たす。さらには、性別(22)、性的指向(6)、人種(7)、および年齢(15)といった要素も、この業界における雇用と昇進の判断に影響を及ぼすことが明らかになっている。すべてをここには挙げきれないが、他にも多くの要素が意識的および無意識的に、S&Cの業界で評価される人材についての判断に影響を及ぼすことが示されている。したがって、教育と認定資格が、S&Cの業界で評価と成功を得るために重要であることは間違いないが、それらは個人の成功における唯一の、または決定的な要素であるとは言い難い。

S&C専門職の体格(プロポーション、身体組成、および筋の発達)が雇用と昇進の機会に果たす役割は、発展途上にある研究分野である(13,14–16,22)。S&Cの業界において体格が雇用に果たす役割は、わずかな注目すべき例外を除いて、まだあまり探究されていない(14–20)。体格や外見に関する先行研究の多くは、過体重または肥満のパーソナルトレーナーに焦点を当てている(22,23,28)。これらの研究は、過体重および肥満の被雇用者が、

体格を理由に異なる目で見られ、異なる扱いを受けることを示した、他の業界における研究を補足するものである(1,4,26)。研究では、過体重や肥満の人は概して知的に劣るとみなされ(27)、居住条件(26)から雇用と昇進の判断(1)に至るまで、多くの面で頻繁に差別を受けることが示されている。反対に、筋肉質で引き締まった体格の人は、その教育レベルやスキルにかかわらず、身体的および医学的な健康の専門家とみなされる(14,20,22)。この研究分野では、パフォーマンスの向上と健康リスクの軽減に取り組む業界において、体格が雇用、評価、および昇進の慣行に果たす役割についての検証が始まったばかりである。

社会理論を応用することで、S&Cの業界にみられる体格に基づくバイアスについての理解が深まる可能性がある。Mills&Gearity(25)は近年の研究において、「社会学的分析を通じ、これまで探究されなかった前提、提示されなかった問い、目を向けられなかった問題を幅広く明らかにすることで、S&Cの業界は前進する可能性がある」と論じている。実際、彼らを中心とした研究者たちによるフーコー的な社会学的分析は、S&Cのコーチングに重要な知見をもたらしている(8,9,11,24)。本稿では、また別の社会理論の応用例として、ピエール・ブルデューの理論を基に、S&C専門職の体格がS&Cの業界においてどのように解釈され、理解されるか、また、その解釈が実世界にどのような影響を及ぼすかを探求する。ブルデューの理論的枠組みは、個人の外見がなぜ、どのようにして、その人のS&Cのスキルと知識の指標であると誤って認識されうるのか、さらには、その外見がどのように経済的および社会的利益を生み出す(または制限する)ことに繋がるのかを探求するものであり、その点で特に有用である。本稿では、ブルデューの差異の理論を用いて、外見がS&C専門職のキャリアに影響を及ぼすことについて批評的な考察を試みる。

ブルデューの差異の理論

体格がS&C専門職の人生に果たす役割について理解するためのカギとなる社会理論が、ピエール・ブルデューの差異の理論である(3)。ブルデューは、個人の占める社会的地位が、その人の得られる資源(資本)を大きく左右すると論じている。人間の趣味や習慣(ハビトゥス)は、人生経験と、その人が属する社会階級の資源とが組み合わさって育まれる。食物や衣服、好きな身体活動の種類に至るまで、あらゆるものに対する個人の嗜好は、その人が占める社会的および経済的位置づけに端を発すると、ブルデューは主張する。それらの趣味や習慣から、人間は特定の種類の生活様式(ヘクシス)に親しむようになる。要するに、人間は、自らの占める社会的地位や経済的階級に基づいて、趣味、習慣、および個人の世界観を育むわけである。そして自らのハビトゥスとヘクシスに基づく個人的な選択を通して、人間は他者との(文化的、経済的、および社会的その他の)差異(卓越化)を示す。例えば、裕福な家庭に育った人は、ヨットを趣味とし、ヨットクラブに所属することによって、自分たちより経済的階級が低く、ヨットの趣味を育まなかった人々との差異を示すことになる。このように、個人の趣味や習慣を通して、我々は意識的および無意識的に、社会階級や地域性その他、生活の多くの側面における自分たちの差異を示している。またそのために、我々は他者に関しても、その人の習慣や生活様式とみえるものに基づいて様々な前提を導き出す。ブルデューの元の理論は、多くの研究者や学者によって発展を遂げ、その理論的枠組み(社会的相互作用を理解する方法)は、社会学とカルチュラル・スタディーズの分野に多大な影響力を有している。

ブルデューによる多様な種類の資源と、それらの相互作用についての理解は、S&C専門職の一見すると無害で裏表のない実践が、隠れたバイアスの影響を受け、歪められている可能性を認識するのに不可欠である。加えて、ブルデューの理論は、人々が社会的、文化的に育んだ各自の趣味、習慣、および生活様式に基づいて選択や判断を行なう際に、これらのバイアスや前提がどのように作用するかについての知見をもたらす。差異の理論では、資源が4つの形式に分類され、それぞれ経済資本、社会関係資本、文化資本、および身体資本と呼ばれる。このうち経済資本は、伝統的に資源と考えられてきたもの、すなわち時間と金銭を指す。社会関係資本は、親族や友人知人との繋がりを指し、これは家庭、教育、交友、および雇用といった経路を通じて育まれる。文化資本は、知識や共通の価値観を指す。そして最後の身体資本は、身体が肉体労働やスポーツを通じて資源として機能しうることを指す(2,3)。これらの資本は通貨と同じく、いずれも他の資本との交換が可能である。例えば、ある人がお金(経済資本)を払って、パワーリフティングのワークショップ(文化資本)に参加するといったようにである。そしてワークショップへの参加は、他のコーチとのコネクション(社会関係資本)をもたらし、それが新たな雇用機会(経済資本)への道を開く可能性がある。多様なバックグ

ラウンドを有する人々は、それぞれアクセスできる資本の形式やレベルが異なるため、ブルデューの理論は、異なる集団間における資源の多層化を説明するのに役立つ。

とはいえ、ある資本の値打ちは、その資本の相対的価値に全面的に依存している。特定の形式の資本が、ある空間では有益でも、別の空間では不利益ということもある。ブルデューは、資本が用いられる空間のことを「場」と呼んでおり、またこれらの場は常に変化している(3)。需要と供給からなる経済と同じく、特定の資源の価値は、(特定の場にいる)人々がその資源に価値を認めるかどうかで変化する。例えば、パワーリフティングのコーチは、走り高跳び選手をトレーニングするのに必要なスキル(文化資本)には熟練しているかもしれないが、その同じスキルは、ボディビル選手の指導に有益とはみなされない可能性がある。同様に、シカゴで多くのクライアントを紹介されているパーソナルトレーナーも(社会関係資本)、ロサンゼルスに拠点を移せば、それほど多くのクライアントを集める人脈がないかもしれない。このように、特定の資本の価値は、常にその資本が用いられる場所(場)によって決まるのである(**表**)。

ブルデューの差異の理論は、様々な形で応用することが可能であるが、本稿では身体資本、なかでも肉体的資本と呼ばれる、身体資本の構成要素に焦点を当てる(14,29)。身体資本は、身体に結び付いた資源であり、2つの相互に繋がりのある要素からなる。身体資本の第1の要素は、身体が何をできるかである。S&C専門職は、クライアントを指導し、トレーニングを通じてこの形式の身体資本を向上させる直接的な経験を有している(10,15)。アスリートのように高い身体資本を有する人は、自分の身体を使い、例えば大学奨学金、プロスポーツ契約、および広告契約などの形で経済資本を高める。そして身体資本の第2の要素は、肉体的資本と呼ばれ(14)、こちらは身体がどのように見えるかにより重点が置かれる。S&C専門職の中には、例えば映画の役のために、特定の体脂肪率や筋肉質な身体を得ようとしている俳優など、肉体的資本の向上を目標とするクライアントを指導する者もいるだろう。俳優のように高い肉体的資本を有する人々は、自身の身体の外見を、経済資本を高める手段として用いる。身体資本と肉体的資本は、似たような資源かもしれないが、それぞれの用いられ方や、達成しようとする目標は大幅に異なる。

伝統的な身体資本(身体が何をできるか)と肉体的資本(身体がどう見えるか)の間には重複する部分もあるが、両者の関係に一貫性はなく、互いに直接関連しているわけでもない。ある人の身体が他者に見られるとき、特にその人がS&Cの業界で働いている場合には、その能力や教育レベルに関する前提が、その人の体格のみを根拠に導き出される(14,15)。しかし、体格とトレーニング能力の間に、固有の関連性があるとの前提をもつべきではない。過体重および肥満の人の事例と同じく、個人の肉体的な外見は、その人の能力や適性、教育レベルに関して特定の見方を提示する。ブルデューの観点からみると、S&Cという場において、特定の体格はそれ以外の体格と比べて、より高い社会的、文化的、および経済的価値を有するのである。肉体的資本は、身体が何をできるかを示す裏付けともなりうるが、だからといって、肉体的資本とS&Cの業界における能力との間に直接の因果関係は存在しないのである。ブルデューの理論的枠組みをS&Cの業界、特にS&C専門職の肉体的資本に応用することで、業界に広く存在するバイアスや前提のいくつかを発見し、検証し、その対応に取り組み、また、そのようなバイアスがもたらしうる結果のいくつかについて考察することが可能となる。

表　資本の諸形式

資本の種類	定義	例
経済資本	経済的資源と時間	金銭や休暇
社会関係資本	人脈	友人、同僚、メンター、親族
文化資本	教育と価値観	大学の学位、所属教会、スポーツファン
身体資本	身体のパフォーマンスおよび外見	競技能力、身体組成、筋肉質な身体
肉体的資本	身体資本の構成要素で、主に身体の外見からなる	身体組成、筋肉質な身体、身体的な魅力

特定の資本の価値は、その資本が用いられる場によって変わる。

肉体的資本とストレングス＆コンディショニング専門職

S&C専門職は、クライアントを理解し、評価するための手段として、身体の形状、機能、および組成を分析して審査することを推奨される。またS&C専門職の多くは、もてる知識を自らの身体にも応用し、それが高い肉体的資本と身体資本を生み出す。そのため、特にS&Cという場においては、肉体的資本と身体資本を結び付ける傾向がみられる。S&Cの業界における肉体的資

本についての先行研究から、両者の相互作用の概要をいくつか抜き出して批評的に分析することで、肉体的資本が経済および社会関係に果たす役割が明確になる。

第1の相互作用は、クライアントがトレーナーまたはコーチを雇う場合である。クライアントは業界の人間でないことが多いため、あるS&C専門職が他より優れている点について判断する情報に乏しい。Carter(5)はこれについて、「一般の人々には、ある認定資格が他と比べてどのように重要なのか判断がつかない」と論じている。クライアントの中には、口コミ(社会関係資本)を通じてS&C専門職を見つける人もいるかもしれないが、近年の定性的研究は、クライアントが雇用するパーソナルトレーナーを選ぶ際、体力がどの程度あるように見えるか(肉体的資本)が重要な役割を果たすことを強調している(12,14,15,18)。一般人は、S&C関連の認定資格の種類に明るくないことから(5,21)、S&C専門職の実際の身体が、トレーナーとしての能力、知識、スキルを示す指標となる。

第2の相互作用は、経営者がトレーナーまたはコーチを雇用する場合である。経営者は概して業界についてより多くの知識を有しているが、営利目的のクラブやフィットネス施設における経営者の責務は、収益を上げることである(18)。彼らは一般人がトレーナーとコーチの区別がつかないことをよく知っているため、より高い肉体的資本をもつ人材を雇用する可能性が高い。Melton(23)は、営利を追求する経営者の場合、トレーナーを雇用する際には「より魅力的な身体を有するほど、より多くのクライアントがそのトレーナーとトレーニングをしたがる」と考えることを明らかにしている。長期的なトレーニング関係においては、トレーニングの能力がより重要な要素となるが、トレーナーを雇用する最初の判断は、必ずしも取得している資格ではなく、その人の肉体的資本に基づいて下される(14)。したがって、肉体的資本を基に雇用の判断を下しているのはクライアントだけではなく、経営者にとっても、体格は重要な判断材料なのである。

上記のような研究は、S&C専門職にいくつか重大な結果をもたらす。これら2つの相互作用が組み合わさると、特定の種類の肉体的資本をもたない人には、潜在的に大きな雇用の障壁となる。

これらの研究は、パーソナルトレーニングの場における肉体的資本と経済資本の関連を示しているが、S&Cというより広い場における肉体的資本の影響は明らかになっていない。しかし、他のS&C関係者との対話から、実際のコーチング能力、知識、またはスキルに関係なく、各種競技のコーチングにおいて、特定の体型がより評価され、適切とみなされている印象を確かに受ける。例えば、マラソン選手がアメリカンフットボールのコーチに選ばれることはないだろう。筋肉質な身体に見えず、したがって、S&Cの知識を伝える肉体的資本を示していないためである。しかし反対に、同じ人物がサッカーコーチに応募すれば、より筋肉質な応募者に比べて有利になると考えられる。肉体的資本を知識やパフォーマンス能力と結び付ける、これらの一見自然な前提は、S&Cのコミュニティにおける潜在的バイアスの存在を浮かび上がらせる。さらなる研究を通じて、S&Cの場におけるバイアスに肉体的資本が及ぼしている影響の範囲と大きさを明らかにする必要がある。

さらに、S&C専門職が有しているバイアスは、一般人のバイアスを強化し、再生産する方向に働く。S&C専門職は、自分たちが多くの場合、S&Cをこれから学ぼうとする一般人にとって最初の接点であることを認識しなくてはならない。Maguire(20)は文化の媒介者という用語を用いて、S&C専門職がクライアントにとっての教育者の役割を果たすことを説明している。またS&C専門職は、クライアントの肉体的資本を高めるために雇用されることも多い(30)。それはすなわち、S&C専門職が肉体的資本に関して何らかのバイアスを有していた場合、そのバイアスがクライアントに伝わり、また間接的に、そのクライアントが交流している人々にも伝わることを意味している。この場合、S&C専門職の肉体的資本に関するバイアスは、他のS&C専門職の肉体的資本がもつ交換価値に影響を及ぼし、業界に変化をもたらすことで、潜在的には業界の雇用と昇進の判断をも左右する。社会的および文化的バイアスは常に引き継がれており、これまで何世代にもわたって引き継がれてきたことを考えると、我々が当然とみなしている様々な前提にも、他の社会的な力が作用している可能性を省察することが重要である。したがってS&C専門職は、能力や専門知識の指標としての肉体的資本を自身がどのように解釈しているか、一歩下がって問い直し、自身がバイアスを有している可能性を批評的に考察する必要がある。

結論

差異の社会理論、なかでも肉体的資本の概念は、S&Cの職務に社会的、文化的な力が作用する複雑さについて我々が深く考察するための、ひとつのきっかけにすぎない。S&Cは非常に裏表の少ない仕事と思われがちである

が、現実には、様々な社会的および文化的な力の影響を強く受けており、その多くが、S&C専門職の努力と業界全体の発展を損なっている可能性がある。このような理論の応用は、専門職や研究者に対して、これまで当然とみなしてきたような事柄について批評的に考察することを促し、それによって多くの新しい、これまで考察されることのなかった問いを、今後の定性的および定量的研究にもたらす。このような社会的、文化的な理論化を通じて、アスリート、クライアント、および専門職のモチベーションや認識に対する我々の理解にさらなる不足が発見される可能性がある。これらの不足の解消に取り組むことで、我々はより効果的なテクニックとリソースを開発し、S&C専門職の努力の質を向上させる機会を得られる。

肉体的資本の知識をS&Cの仕事に役立てるひとつの方法は、S&C専門職が体格から相手の目を逸らす効果的な方法について議論することである。例えば、新しいクライアントに専門職のスキルを大いに強調することで、肉体的資本に対する最初の評価を克服するといった方法である。その他、肉体的資本を意識することは、S&C専門職が自身を「それらしく」見せるために、服装によって体格を強調したり隠したりする判断にも役立つ。反対に、体格(肉体的資本)より専門知識(文化資本)を強調する方法として、専門知識(全米ストレングス&コンディショニング協会[NSCA]の会員であることなど)を示す服装を選ぶこともできる。S&C専門職の日常的な交流に肉体的資本が果たす役割を意識することで、自己表現の実践に関して、より情報に基づいた判断を下すことが可能となる。

肉体的資本がS&Cの業界に果たす役割については、さらなる研究が必要である。特に、肉体的資本がS&Cの各分野にどのような要素として作用するのかを研究し、それを基に新しい教育および情報プログラムを作成する必要がある。それらのプログラムは、肉体的資本が業界で成功を収める上での障壁または促進剤として果たす役割についての意識を高めるだけでなく、専門職を目指す人々に、自身のスキルや資格を目立たせる自己表現のテクニックを提案するものでなくてはならない。NSCAなどの資格認定団体は、S&C専門職の知識やスキルを明確に表すいくつかの資格を設けており、また、他にも新たなアプローチを取り入れることで、フィットネス専門職(**写真**)のキャリア向上を促進する効果が期待される。◆

References

1. Agerstrom J, Rooth DO. The role of automatic obesity stereotypes in real hiring discrimination. *J Appl Psych* 96: 790–805, 2011.
2. Bourdieu P. Sport and social class. *Soc Sci Inf* 17: 819–840, 1978.
3. Bourdieu P. *Distinction: A Social Critique of the Judgement of Taste*. Cambridge, MA: Harvard University Press, 1984.
4. Carr D, Friedman MA. Is obesity Stigmatizing? Body weight, perceived discrimination, and psychological well-being in the United States. *J Health Social Behav* 46: 244–259, 2005.
5. Carter L. The personal trainer: A perspective. *Strength Cond J* 23: 14, 2001.
6. Cunningham GB, Sartore ML, McCullough BP. The influence of applicant sexual orientation, applicant gender, and rater gender on ascribed attributions and hiring recommendations of personal trainers. *J Sport Manage* 24: 400–415, 2010.
7. Day JC, McDonald S. Not so fast, my friend: Social capital and the race disparity in promotions among college football coaches. *Socio Spectr* 30: 138–158, 2010.
8. Denison J, Mills JP. Planning for distance running: Coaching with foucault. *Sports Coaching Rev* 3: 1–16, 2014.
9. Denison J, Mills JP, Konoval T. Sports' disciplinary legacy and the challenge of "coaching differently". *Sport Educ Soc* 22: 772–783, 2017.
10. Frew M, McGillivray D. Health clubs and body politics: Aesthetics and the quest for physical capital. *Leis Stud* 24: 161–176, 2005.
11. Gearity BT, Mills JP. Discipline and punish in the weight room. *Sports Coaching Rev* 1: 124–134, 2012.
12. George M. Interactions in expert service work: Demonstrating professionalism in personal training. *J Contemp Ethnogr* 37: 108–131, 2008.
13. Harvey G, Vachhani SJ, Williams K. Working out: Aesthetic labour, affect and the fitness industry personal trainer. *Leis Stud* 33: 454–470, 2014.

写真　この写真を見て、どのS&C専門職をパワー系競技の選手のトレーナーに選びますか？　持久系競技の選手や、減量を目指すクライアントのトレーナーには？　また、その人物を選ぶ理由は？

14. Hutson DJ. "Your body is your business card": Bodily capital and health authority in the fitness industry. *Soc Sci Med* 90: 63–71, 2013.
15. Hutson DJ. Training bodies, building status: Negotiating gender and age differences in the U.S. Fitness industry. *Qual Soc*: 39: 49–70, 2016.
16. Maguire JS. Fit and flexible: The fitness industry, personal trainers and emotional service labor. *Sociol Sport J* 18: 379–402, 2001.
17. Maguire JS. Body lessons: Fitness publishing and the cultural production of the fitness consumer. In: *The Sport Studies Reader*. Tomlinson A, ed. London, United Kingdom: Routledge, 2007. pp. 202–210.
18. Maguire JS. *Fit for Consumption: Sociology and the Business of Fitness*. New York, NY: Routledge, 2007.
19. Maguire JS. Leisure and the obligation of self-work: An examination of the fitness field. *Leis Stud* 27: 59–75, 2008.
20. Maguire JS. The personal is professional: Personal trainers as a case study of cultural intermediaries. *Int J Cult Stud* 11: 211–229, 2008.
21. Malek MH, Nalbone DP, Berger DE, Coburn JW. Importance of health science education for personal fitness trainers. *J Strength Cond Res* 16: 19–24, 2002.
22. Melton D, Dail TK, Katula JA, Mustian KM. Women's perspectives of personal trainers: A qualitative study. *Sport J*: 14, 2011.
23. Melton DI, Dail TK, Katula JA, Mustian KM. The current state of personal training: Managers' perspectives. *J Strength Cond Res* 24: 3173–3179, 2010.
24. Mills JP, Denison J. How power moves: A foucauldian analysis of (in) effective coaching. *Int Rev Soc Sport*, 2016 [Epub ahead of print].
25. Mills JP, Gearity B. Toward a sociology of strength and conditioning coaching. *Strength Cond J* 38: 102–105, 2016.
26. Puhl R, Brownell KD. Bias, discrimination, and obesity. *Obesity* 9: 788–805, 2001.
27. Puhl RM, Heuer CA. The stigma of obesity: A review and update. *Obesity* 17: 941–964, 2009.
28. Sartore ML, Cunningham GB. Weight discrimination, hiring recommendations, person–job fit, and attributions: Fitness-industry implications. *J Sport Manage* 21: 172–193, 2007.
29. Shilling C. Physical capital and situated action: A new direction for corporeal sociology. *Br J Soc Educ* 25: 473–487, 2004.
30. Stewart B, Smith A, Moroney B. Capital building through gym work. *Leis Stud* 32: 542–560, 2013.

From *Strength and Conditioning Journal*
Volume 40, Number 6, pages 9-14.

著者紹介

Shaun Edmonds：
University of Maryland at College Parkで講師を務める。

NEXT10月号（2019年9月25日発行）

特集 グループエクササイズ最新トレンド

第一線で活躍するインストラクター・トレーナーのインタビュー記事や求人・養成情報も盛りだくさん!
更なるキャリアアップのお供にぜひご活用ください。☆バックナンバーのご注文も受付中!（在庫ある限り）

インストラクター・トレーナーの
キャリアマガジン
NEXT

月刊NEXT
毎月25日発行
※施設への無料配布（5部以上）
を承ります。
一部売り（送料一律390円）も受付中!
お電話かメールにてお申し込みください。

トレーナーの求人・養成
セミナー情報量NO.1
リニューアル！
Fitness Job

Fitness Job
求人情報や講座情報を随時UP
新鮮な情報を、
業界随一のボリュームで提供しています!

広告出稿企業も募集中！
優秀なトレーナーやインストラクターを募集したい企業様、運動指導者向けの講座や資格を発行されている団体様はぜひこの機会に広告を掲載してみませんか？ NEXT 編集部までお気軽にお問い合わせください。

株式会社クラブビジネスジャパン TEL:03-5459-2841 www.fitnessclub.jp/next info@fitnessclub.jp